

# 若者がミズから描く未来討論会

人口減少・少子高齢化社会を迎え、特に地方においては、都市部への若年層の人口流出が著しく、過疎化や働き手の不足などが生じており、水インフラの分野においても、健全な事業運営における大きな問題となっている。一方、我が国では、それぞれの地域において豊かな自然環境や優れた景観、伝統文化などがあり、国土全体を豊かにする源となっています。

このような、地域固有の魅力を活かした次世代のまちづくりを実現するプロセスとして、ワークショップに代表されるように、行政と市民等が一体となり協働的にビジョンを検討することが重要とされていますが、利害関係者間の調整が困難であるとの課題も顕在化しています。

このような背景を踏まえ、豊かな水環境に生まれ、人々の生活、観光・工業を含む産業等において、「水との共生」が地域のキーワードである秋田県にかほ市をフィールドに、『次世代のまち』は『次世代の主役』が検討する」をコンセプトに掲げ、市内外の学生と行政組織・コンサルタントが協働による、「水」を切り口とした地域ビジョン策定のためのプロジェクトを実施しました。

## 対象フィールドの概要

対象フィールドとした秋田県にかほ市は、秋田県の南西部に位置し、山形との県境にそびえる鳥海山、西に日本海を臨み、面積は約241.13 km<sup>2</sup>で人口はおよそ2.5万人の田園都市です。鳥海山・飛島エリアは日本ジオパークに認定されており、市内では元滝伏流水や奈曽の白滝・上郷温水路群を辿る水の景勝地や文化財に触れることができます。本対象都市を選定した着眼点を以下に示します。

- ①にかほ市人口ビジョンによると、国立社会保障・人口問題研究所に準拠した推計を行った場合、2040年の将来人口は18,007人と推定されており、2010年現況人口27,544人に対して約7割程度まで減少  
⇒地方小都市における象徴的な人口減少都市である
- ②水道普及率99.7%、汚水処理普及率97.8%と、水インフラの整備水準が高い  
⇒人口減少下、持続的な水マネジメント手法が問われている
- ③地域にそそぐ伏流水は25万m<sup>3</sup>/日と、豊富な水資源を有している  
⇒365日、気象影響を受け難い、安定的な水供給ポテンシャルを有している

## プロジェクトのフローと工程

本プロジェクトのフローは右図のとおりです。プロジェクトの着手から完了までには、約6ヶ月の期間を有しました。



### (1) 対象フィールドの選定

- 水を切り口とした地域振興策の検討
- ⇒にかほ市を選定

### (2) 参加者の選定

- 自由な発想と多角的な視点を取り入れる
- ⇒にかほ市内、秋田県内、東京都内の若者に参加依頼

### (3) フィールドワーク・中間発表会の実施

- 水の魅力に触れるコース、提案に応じたコースの検討
- 意見交換会の実施
- ⇒各校の地域振興策を作成

### (4) 『未来討論会』の実施

- 観光拠点センター「にかほっと」で実施
- 意見表示システムを構築
- ⇒発表者・コメンテーター・市民参加型の討論会を実施

### (5) ピクチャーの作成

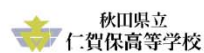
- 討論会に参加していなかった市民にもわかりやすく伝える
- ⇒各校の提案内容の相互関係や水循環との関わりを一目でわかりやすく表現

## プロジェクトの参加者

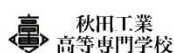
本プロジェクトチームの中心は、「次世代の主役＝若者」である地元内外の学生としました。そして、にかほ市とコンサルタントである日水コンは、学生達の検討作業を「見守る姿勢」による支援や各種イベントの手続き等を行い、プロジェクト全体をコーディネートする役割に徹しました。

にかほ市から仁賀保高等学校の生徒会、秋田県内から秋田工業高等専門学校の環境都市工学科/専攻科環境システム専攻、秋田大学の土木環境工学コース、東京都内から中央大学の理工学部人間総合理工学科、専修大学の経営学部の5校よりご参加いただきました。参加学生の選定における着眼点を以下に示します。

- ①地域に親交の深い地元の若者だけでなく、都内学生参加による「よそ者視点」を織り交ぜ、気づき・刺激の相乗効果を促すことを狙いとした
- ②各校参加学生の専門分野は文理織り交ぜ、各々の専門分野の基本理念、哲学を学習・尊重し合うことで生まれる多角的な検討姿勢により創出される提案を狙いとした



生徒会

環境都市工学科/  
専攻科 環境システム工学専攻

理工学部 土木環境工学コース



経営学部 見山研究室



理工学部 人間総合理工学科

## フィールドワーク・中間報告会

学生の検討プロセスにおける基礎調査を重視し、合宿形式によるフィールドワークを開催しました。2018年12月1日～4日にかけて各校1泊2日で行い、初日はにかほ市観光案内人協会等の協力のもと、水の魅力に特化した見学コース(元滝伏流水、奈曽の白滝、獅子ヶ鼻湿原、上郷温水路群等)を廻り、元滝伏流水近傍で湧水を飲む体験や、奈曽の白滝上流に位置する小滝クリーンセンター(農業集落排水施設)の見学を交え、水の循環を意識させることを重視しました。1日目の夜は日水コン若手職員と学生および指導教員によるミーティングを実施し、2日目の見学プランを学生が自ら立案しました。



また、討論会本番に向けて、12月23日に中間発表会を都内で行いました。各校の特色を活かした地域振興策の骨格をプレゼンテーションし、互いの提案内容を共有しました。発表後は日水コン職員を交えた意見交換を行い、活発な議論の中で地域振興策の内容を深掘りしていきました。

## 未来討論会の実施

### ①会場

未来討論会の会場は、市民の憩いの場である、にかほ市の観光拠点センター「にかほっと」内のフードコートにステージを設営しました。未来討論会当日、食事や買い物に訪れた市民の中には、興味深く討論を聞く状況もあり、当初の狙いの1つであった市民を巻き込むという狙いに対し、一定の効果が得られたと考えています。



# 若者がミズから描く 未来討論会

～にかほの水は、  
にかほの豊かさを育む～

2019  
**2.3** SUN <観覧無料>  
13:30・16:00

にかほ市観光拠点センター  
「にかほっと」  
(にかほ市象潟町大場越36-1)

スマホを使って、  
あなたもリアルタイムで  
討論に参加できます！  
あなたのアイデアが実現するかも？

②コメンテーターの招集

学生との討論を実施するコメンテーターをお招きし、各分野に造詣の深い視点から、学生のプレゼンに対する質疑やコメントを学生とやり取りすることで、提案内容の発展に繋がるアドバイスをいただきました。

- にかほ市長 市川 雄次 氏
- 内閣府地域活性化化道師・東北大学特任教授 加藤 裕之 氏
- 佐賀市上下水道局 水循環部広報デザイン・GKPアドバイザー 諸富 里子 氏
- 株式会社飛良泉本舗 専務取締役 齋藤 雅昭 氏

④各校の発表・討論

『プログラム①:参加5校の個性や専攻分野を活かした地域振興策をプレゼンテーション』

「水」を切り口に、それぞれの視点から課題を設定し、各校の特色を生かした地域振興策が提案されました。

『プログラム②:全員参加型討論「5つの発表を1つのモデルにするために」』

コメンテーターからは、各校の提案内容を「にかほモデル」として発展させるため、市民に「自分ゴト化」を意識させることが重要とのアドバイスを頂戴し、会場からは「にかほ市の水の魅力と循環について理解することができた」や「市民自らが魅力を理解した上で外にも発信していきたい」といった意見が寄せられ、水資源の重要性に関する意識改革・向上の場とすることができたと評価します。

③意見表示システムの導入

会場の全員が参加できる討論会とするために、スマートフォンを使いSNSを通じて投稿した意見がスクリーンに表示されるシステムを導入しました。未来討論会の開催を知らずに会場へ訪れた市民も飛び入り参加できるよう、SNSのURLを記載した案内カードを配布しました。



各校の発表内容

学校名	提案内容
仁賀保高校	『水循環 躍動するにかほ市』 にかほ市の紹介 ・負のスパイラルから躍動のスパイラルへ ⇒ウォーターマラソンの開催を提案 ⇒水インフラ情報をはじめとするデータセンターなど、「学ぶ」「楽しむ」「休む」「守る」をテーマにした複合施設「WaiWai」を提案
秋田大学	『にっこり かっごくよく ほっと な交通システム にかほ smile smart safe「3S-Transit」 in NIKAHO ~水と人と心をつなぐ、にかほ型コミュニティ交通~』 ・公共交通の「いまいち（もったいない）」ことを分析 ・持続性がない、観光地へ行きづらい、乗り継ぎが不便 ⇒自動運転によるバス路線・観光路線・交通地点の設置を提案
秋田高专	『「エン」があふれる町 にかほ ~処理水利用で産業革命~』 ・水循環の動脈と静脈を整理→静脈利用はされていない ・処理水中の栄養塩・下水熱の農業利用の可能性 ⇒処理水による酒米の栽培を提案 ⇒にかほブランドを創出し、水循環への意識改革を提案
中央大学	『鏡よ かがみ ~世界で一番持続可能な田園都市~』 ・人口減少下でも持続可能な都市であることが必要 ⇒石垣の材料により汚泥を使い尽くす ⇒あざ道セグウェイ・白雪姫によるブランディング ⇒SDGsを意識した田園都市モデル 『世界一持続可能な田園都市 にかほモデル』の提案
専修大学	『にかほの水で火を灯す』 ・経営学の視点から考える「魅力」の紡ぎ方 ・にかほ市の理想の循環→地元の若者の出戻り ・地域の魅力が必要 ⇒「水×酒」や「水×美容」など水のブランディングを提案 ⇒産官学の連携を提案

掲載順は当日の発表順、『』内は発表タイトルを示す。

⑤ピクチャーの作成

5校から提案された地域振興策を、「未来型水循環都市にかほモデル」として1枚のピクチャーに表しました。各校のアイデアを、「発信」、「有効利用」、「付加価値」の3つの視点によってひとつの循環としました。この循環を廻すことで得られる効果を宝箱とし、宝箱を開けることで「水循環を活かした躍動するにかほ市を創造する」ための道筋を示しました。



- 【3つの宝箱】
- ・「新たな交流の場！活気・にぎわいが生まれ、もっと安心して過ごせる市に！」
  - ・「新しい地場産業の創出。観光収入増！地元経済が活性化！」
  - ・「田園都市としての世界モデルへ！SDGsを目指した世界のNikaho」